



デタッチャブルギターの歴史は
Broadcasterから始まった。

1948年Leo FenderがGeorge Fullenの協力を得て開発したのが、このRTE-80 48MODELのマザーとなっているBroadcasterなのだ。デタッチャブル・ノットボディの市販ギターとしては世界初なのはいまでもなく、エレクトリックの身体ともなったモデルだが、オールド派の中でも特にピックアップがこのBroadcasterとその流れをくむTelecasterを徹底的に分析して開発、ボディ、ネック、サーキット、ピックガードの素材にいたるまでRevivalさせたのだ。



オールドサウンドを復活させたヴィンテージPRU。
BroadcasterとTelecasterの仕様の違いを明確に再現!!

あのシャキッと切れる良いリズム、哥えわたるリードトーン、タイトなリズムもハシッと決まるアグレッシブなサウンドで、それがRTEのピックアップがブルース・ジャズ・ロック・ポップス、ジャズ・フュージョンなどでもオリジナル通りに忠実に再現。と同時に48Broadcasterと、54Telecasterの時代の流れによる仕様の変化も明確にスペックとして表わしている。



TelecasterのマザーとなっているBroadcasterのボディシェイプがRTEだ!!

トランスルーセントなカーブを見せるこのボディシェイプは、基本的にはBroadcaster、Telecasterとも形状は同じ。しかし、開発当初のBroadcasterのボディ

がよりLeo Fenderの設計集団に伝い、と断然、マザーと決定してパーフェクトに再現したのだ。

Broadcaster (RTE-80)、Telecaster (RTE-60, 70)のサウンド個性の違いを再現したサーキット!!

Broadcasterはアディティブ・Leo Fenderがスペシャルマンタゲーションに仕上げているのだ。

オールドの素材コンビネーションまでフル再現!!



RTE-80

①ブリッド位置、橋巻線はダイレクトな高音、ゆるゆるなリフを奏入しているアコースティック。

RTE-60, 70

ペーシングなコントロールも確立した使いやすいくонтроール。



RTE-60

①ブリッド位置、橋巻線はダイレクトな高音、ゆるゆるなリフを奏入しているアコースティック。

RTE-80, 70

ペーシングなコントロールも確立した使いやすいくontrol。

